

【学内限定】

令和6年度(2024年度)採用分
日本学術振興会特別研究員 (DC, PD)

特別研究員申請書の書き方 コツとアドバイス



大阪大学
経営企画オフィス URA 部門
令和5年3月

目次

1. はじめに	1
2. 公募スケジュール	2
3. 特別研究員申請書作成の基本	3
4. 「申請内容ファイル」作成上の注意	5
5. 申請書の書き方 コツとアドバイス	6
6. 特別研究員 申請書チェックリスト	13
【別紙 1】 評価者となる研究指導者へのお願い参考サイト	15
【別紙 2】 参考サイト	24

1. はじめに

「令和6年度(2024年度)採用分 日本学術振興会特別研究員(DC, PD)申請書作成マニュアル」は、令和6年度(2024年度)採用分 日本学術振興会特別研究員のDCおよびPDに申請を予定している方に向けて、経営企画オフィス URA 部門がこれまでに行ってきた申請書に対するアドバイスをまとめたものです。

なお、日本学術振興会(JSPS)から公表される募集要項は必ず目を通すようにして下さい。

申請書を書くということは、これから研究者としてどのように研究を展開していくのかを考える上で非常に重要な機会となります。自分のやっていること、その意義を理解し、それをもとに次にどのようなことをやりたいか、なぜやりたいか、手法はどう新しいのか、それによって得られる結果は何なのか、それらが社会にどう貢献するのかを、他の人にもわかりやすく書くことが大切です。

審査委員はどれだけ本人が努力して自分の力で申請書を書いているのかを見ています。まずは自分の考えを自分の言葉で書いてみるのが大切です。作成した申請書は内容をきちんと伝えることができているか、指導教員の先生や友人など周りの方に読んでもらいましょう。得られた助言を自分自身で再考慮していくことがより良い申請書となるだけでなく、自分自身のさらなる成長にも必ずつながることでしょう。

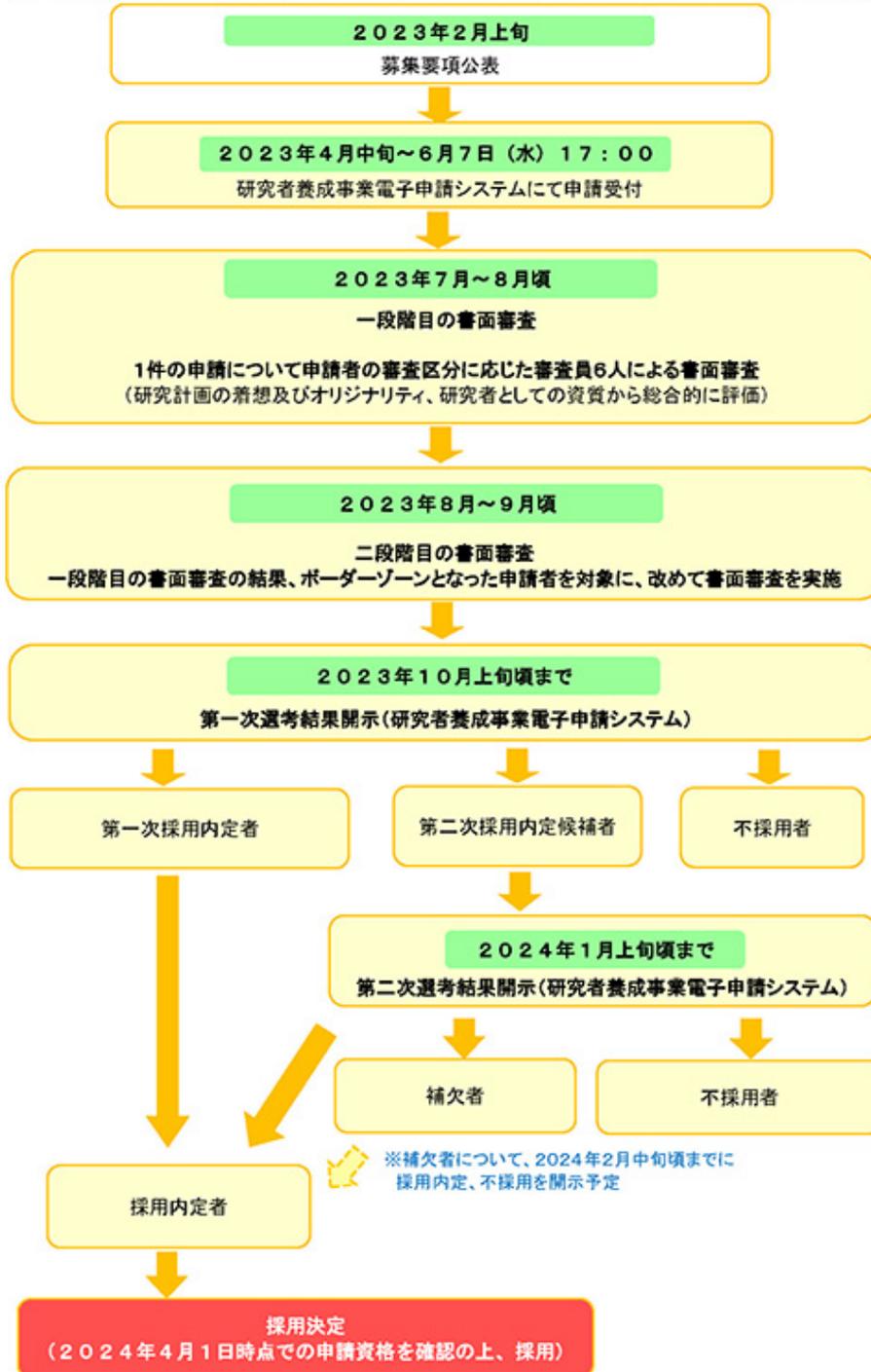
申請書を書くこと、書くという経験を積むことが大切です。
落ちることを恐れずにチャレンジして下さい！

経営企画オフィス URA 部門

2. 公募スケジュール

https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_nittei.html

令和6(2024)年度採用分特別研究員(DC1・DC2・PD)の募集から採用までのスケジュール



令和 6(2024)年度採用分からの変更点:

※なお、**特別研究員奨励費**(特別研究員)は日本学術振興会特別研究員の申請時のみ応募可能です。採用期間の2年目、3年目に改めて応募することはできませんので、特別研究員奨励費(特別研究員)への応募を希望される場合は、**必ず今回の応募手続きを行ってください。**

参照: https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html

3. 特別研究員申請書作成の基本

3.1 審査方針を理解する

募集要項および申請書作成要領を熟読し、要項に示された審査方針を理解しましょう。申請書は下記審査方針に「応える」内容になっていることが重要です。

審査方針の一部(DC・PDに共通)

- ・ 学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること
- ・ 自身の研究課題設定に至る背景が示されており、かつその着想が優れていること。また、研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されていること
- ・ 研究を遂行する能力が優れていること

3.2 書面審査について理解する

申請書作成にあたっては、具体的な審査方法について十分に理解し、「採用される申請書」作成に反映させることが重要です。

(1) 書面審査が実施される単位

1件の申請書を6名の審査員が審査します。このとき同じ6名の審査員が審査する申請書のグループ(書面審査の実施単位)を、書面審査セットといいます。書面審査セットは、いくつかの細目をグループ化したものです。同じ土俵で審査されるライバルを知る、審査員候補のバックグラウンドを知るためにも、申請書を書き始める前に必ず書面審査セットを確認してください(https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sinsa-set.html)。

(2) 書面審査での評点方法

審査員は申請書の内容を判断の根拠とし、次のように評点を付します。

審査項目	評点方法
① 研究者としての資質 ② 着想およびオリジナリティ ③ 研究遂行能力	①～③の各項目評価は、5段階の絶対評価 (5が最高点、1が最低点)
④ 総合評価	①～③の項目評価をもとに、総合的に研究者としての資質及び能力が判断されます(相対評価) 評点「5」10%、評点「4」20%、評点「3」40%、 評点「2」20%、評点「1」10%

評点結果は、6名の書面審査員による平均値となります。①②③すべての項目で良い評点が得られるような申請書を作成する必要があります。

また、書面審査においては、DCとPDで重視する点が異なります。

DC	研究経験が少ないことから、「研究者としての資質」を重視して評価 → 申請者の研究者としての資質が主な評価の対象となります。
PD	上記に加えて「新たな研究環境に身を置いて自らの研究者としての能力を一層伸ばす意欲が見られること。」も重視して評価。

(3) 評価書の重要性

審査員にとって、評価者となる研究指導者が書く評価書は大きな判断材料です。評価書の内容が良くないと、審査員は総合評価で良い点を付けないと思います。したがって、評価者により評価書を書いてほしいのですが、それを申請者からはお願いしにくいと思います。そこで【別紙1】を作りました。それを評価者に渡してください。

3.3 申請者自身の研究者としての魅力をアピールする

募集要項の審査方針の一番目に「学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること」と書かれています。すなわち、審査員は申請書を通して、申請者が将来どのような研究者に育っていくのかを読み取ろうとします。その意味で申請書は「学術論文」ではなく、就職時の「履歴書・志望動機書」に近いものと言えます。

【目指す研究者像】や【研究遂行力の自己分析】の項目だけでなく、【研究計画】項目においても、それらの背景にある「申請者個人」の魅力を理解してもらえるような申請書にする必要があります。

そのために以下の点に注意しましょう。

① 主体的な記述にしましょう。

研究チームの一員として実施した(実施する)研究、指導教員の指揮下で実施した(実施する)研究であっても、「我々(=チーム)」の取り組みではなく「私(=申請者個人)」の取り組みが明快になるようにしましょう。

② 学術論文と申請書の違いを理解しましょう。

学術論文は、「研究を行った成果」を「学術的な観点」を重視して「主に当該分野の専門家」が理解できるように作成するものです。それに対して申請書は、「これから取り組もうとする研究」の「社会への貢献や学術的インパクト」を主張して「当該分野の専門家以外」にも理解してもらえるように作成する点が大きく異なります。

3.4 審査員にとって読みやすく書く

審査員は忙しい中、研究時間を削って短期間に多くの申請書(1 審査員あたり 30~80 名分)を読むことになります。そのような審査員にとって読みやすく、さらには印象に残る申請書を「審査員の視点」も考慮して作成する必要があります。

そのために以下の点に注意しましょう。

① 専門分野以外の人にも分かる言葉で書きましょう。

必ずしも研究の内容を詳細に理解してもらう必要はありません。

審査員の専門分野の目安として、申請する小区分が属する「書面審査セット(書面審査区分)」に含まれる他の小区分や「審査区分表」の小区分毎の内容の例を確認しましょう。

② 審査員が「読み進めたい」と思う申請書にしましょう。

研究目的や研究方法の詳細等だけではなく「研究課題名」や「研究のインパクト」についても熟考して記載しましょう。

申請書の各項目の「冒頭の2~3文」に最も強調したい内容を記載して、審査員の興味を引くようにしましょう。

③ 申請書様式の枠上に指示されている項目は原則すべて書きましょう。

何を書くことが求められている場所なのかをよく考えて、審査員が期待していることが期待されている場所に書かれているようにしましょう。

④ 同一の事柄は一貫して同一の用語で書きましょう。

⑤ 推敲しましょう。

用いる言葉(接続詞、助詞等も)を少し変えるだけ、あるいは改行を入れるだけでも印象が大きく変わる場合があります。

⑥ 研究の学問的・社会的意義、研究目的・内容等を審査員が短時間で理解できる申請書になっているか、第三者にも読んでもらい確認しましょう。

4. 「申請内容ファイル」作成上の注意

申請年度の募集要項は必ず確認して下さい

DC の申請書を例に取り説明しますが、PD も同様です。両者で特に留意すべき違いがある点についてはその旨明記してあります。

4.1 形式的な注意事項

- ① 様式の変更・追加は不可、申請書様式の枠下にある斜体で記された説明分の消去
- ② 文字は 10 ポイント以上
※ ①および②は作成要領に定められた注意事項です。
- ③ グレースケール印刷でも見やすいかを確認しましょう(電子申請システムで PDF 化されたものを印刷して確認)。
- ④ 単位記号等環境依存文字や PDF に埋め込まれないフォントは、他の環境で印刷すると正しく表示されない場合がありますので注意して下さい。
- ⑤ 日本語のフォントは明朝体を基本とし、強調したい場合はゴシックや下線を使用すると良いでしょう。ただし、強調部分が多くなると読みづらくなるので、どのような場合にゴシックや下線を使うかのルールを統一しましょう。

4.2 作成上の注意事項

- ① 申請書様式の枠上に指示されている項目を確認し、すべて記載しましょう。そこに説得力があれば、研究能力に優れ将来性があると判断されることになります。
 - ・ 図表を含めて分かりやすく
 - ・ 専門用語を使いすぎない
 - ・ 特色と独創的な点ももれなく記述
 - ・ 関連する重要文献を挙げながら記述
- ② 専門分野がかなり離れた審査員にも理解してもらうため、下記 5 点が分かるように書きましょう。
 1. なぜ・何のために研究をするのか。
 2. 何を研究するのか。
 3. どのような方法で研究をするのか。
 4. どのような研究成果を目標としているのか。
 5. その成果が得られると、社会または学術にどう貢献するのか、インパクトを与えるのか。学会発表であれば 2~4 だけで充分かも知れませんが、特別研究員の申請では研究の意義を示す 1 と 5 も重要です。
- ③ 図表を効果的に使いましょう。
 - ・ 図表には必ずタイトルを記載
 - ・ 図表は必ず本文で引用し、引用箇所に近いところに配置
 - ・ 図・表番号はそれぞれ通し番号を記載
- ④ 申請書は詰め過ぎず、かつ空白部分が残らない(枠内を埋める)ように記載し、「採用されたい」という熱意をアピールしましょう。
- ⑤ 過去に採用された申請書(同じ研究室の先輩の申請書、同じ研究科出身の方の申請書など)を入手して目を通し、書き方を参考にするのも良いと思います。最近では、市販の「申請書の書き方」に関する書籍も充実していますので、それらを参考にされるのも良いでしょう。

5. 申請書の書き方 コツとアドバイス

2. 【研究計画】 ※適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(1) 研究の位置づけ

特別研究者として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

【当該分野の状況や課題等の背景】 ← 項目別に小見出しを付ける

枠内に指示されている項目は原則全て書く

- ・ 概念図を用いる
- ・ わかりやすく＝「専門外の人にも」わかりやすく

(例) 当該分野で考えられていること(通説)やすでに明らかとなっている事実、どのような研究が行われているのか等について、引用論文をあげて説明する。

- ・ 分かりやすく、かつ見栄えのする概念図や表などを効果的に使う。図表の意味することがパッと見て理解できるようにする

⇒ 最も重要なポイントが表現されている”簡単な図”になっているか

図1 ○○○の分布。○○○が○○○となっていることを示す。

【本研究計画の着想に至った経緯】

(例) これまでの自身の研究成果(問題点や未解明部分)の結果に対する仮説は何か。

↓

本研究計画で新しく仮説を立てるに至った経緯や、本研究計画の内容が先行研究にない全く新しい概念であることを説明する等を書く。

- ・ 図中の文字・数字は読める大きさにしているか
- ・ グレースケールで印刷されても、鮮明で見やすい工夫がなされているか

図2 ○○○

条件○○○では、○○○だけが○○○であることを示した。

⇒ 実験条件により○○○の形成プロセスが異なる。○○○であることが考えられる。

↑ 図表や本文の内容が一目で分かるように、別立てて要点を記載するのも良い

参考文献

[1] ○○○, et al., *Atmos. Meas. Tech.*, **13**, 6657–6673, 2020.

[2]

[3]

研究計画に関連した重要な論文があれば、本文中には番号[1]や括弧書き(○○○, et. al., xxxx)などで記載し、最後に【参考文献】としてまとめて記載するのが良いでしょう

申請者登録名 ○○○○

【研究計画】(続き) ※適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(2) 研究目的・内容等

- ① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
- ② どのような計画で、何をどこまであきらかにしようとするのか、具体的に記載してください。
- ③ 独創的な点(先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等)にも触れて記入してください。
- ④ 共同研究の場合には、申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関(外国の研究機関等を含む。)において研究に従事することも計画している場合は具体的に記入してください。

↑ 枠内に指示されている項目を立てるなどして、全て記述する。スペースが限られているので、一番言いたことは何か、項目ごとのスペース配分も考える。

① 研究計画における研究目的、研究方法、研究内容

【研究目的】

〇〇〇による〇〇〇の解明

← 詳細は②で書くので、ポイントだけを記述する。今回どのような方法を使って研究を進めるのか等。また、項目ごとに書くとき後で実施時期を説明しやすい

【研究方法および内容】

〇〇〇〇〇〇.....
を明らかにする(図3)。
 以下の3つの項目に従って研究を実施する。

(項目1) 〇〇〇

(項目2) 〇〇〇

(項目3) 〇〇〇

- 分かりやすい写真や図などがあれば適宜加える
- 例えば、実施項目の概要を分かりやすい図で示す、研究計画に対応したフローチャートなどを示す、等

図3 研究実施項目の概要

上述に挙げた各項目について、より具体的な内容を書く(例えば、年次ごとにどの内容を行うか、達成目標(マイルストーン)など)。研究計画に対応したフローチャートや年次計画を図示するなど、読む側に理解してもらうことを心がける。

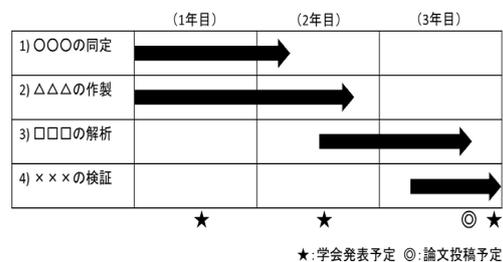
② どのような計画で、何をどこまであきらかにしようとするのか

【1年目】

(項目1) 〇〇〇

【2年目】

【3年目】



※DC2 申請者は3年目の記入は不要

↑ 研究項目のフロー図やスケジュールを用いて図示すると見やすくなる場合があります(例:スケジュール)

申請者登録名 〇〇〇〇

令和6(2024)年度採用分の申請より、特別研究員奨励費は、特別研究員の申請と同時に申請することになりました。応募区分によって研究計画の記入内容が変わりますので、ご注意ください。

応募区分に応じた 研究計画	「A区分」を希望する者	「B区分」を希望する者
A区分 ・特別研究員としての研究のベースとなる研究計画 (※全申請者必須)	記入必要	記入必要
B区分 ・研究計画上、応募総額がA区分の応募総額を超える必要がある場合のみ、 <u>A区分の研究計画との相違点(追加的に行う研究内容)</u> を簡潔に記入 (※希望者のみ)	記入不要	

<応募区分に応じた研究計画のイメージ図>

DC1で特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合

DC2で特別研究員奨励費の研究期間が2年の場合

<p>応募総額240万円以下で行う研究計画 (特別研究員としての研究のベースとなる研究計画) (※全申請者必須)</p> <p style="text-align: right;">A 区 分</p>	<p>応募総額160万円以下で行う研究計画 (特別研究員としての研究のベースとなる研究計画) (※全申請者必須)</p> <p style="text-align: right;">A 区 分</p>
<p>研究計画上、応募総額240万円を超える必要がある場合のみ、 A区分の研究計画との相違点(追加的に行う研究内容)を簡 潔に記入(※希望者のみ)</p> <p style="text-align: right;">B 区 分</p>	<p>研究計画上、応募総額160万円を超える必要がある場合のみ、 A区分の研究計画との相違点(追加的に行う研究内容)を簡 潔に記入(※希望者のみ)</p> <p style="text-align: right;">B 区 分</p>

③ 独創的な点(先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等)

「独創性」とは、「他人を真似ることなく、独自の考えでものごとを作り出す性質・能力」(大辞林 第三版)。つまり、他の研究とどのように違うのか、申請者にしかできないことは何かを書く。この研究により何が明らかになることが期待されて、それによって世界観がどうかかわるのか。どのような波及効果が期待されるのかを書く。

- ・本研究の特色
- ・先行研究との比較
- ・予想されるインパクト、将来の見通し

④ 共同研究の場合には、申請者が担当する部分を明らかにしてください

自分がどの項目を担当するのかなどを具体的に記載する。自分がもつテクニックなどが研究計画の遂行に不可欠であることを明記すると計画の実現性に説得力が増す。例えば研究体制を図表にするのも分かりやすい。該当がなければ、「該当なし」と記載する。

(例)本研究は、〇〇大学〇〇研究室との共同研究を計画している。〇〇〇分析において抱負な経験を有する〇〇教授の技術支援を得るが、申請者が〇〇の全てにおいて担当して研究を進める。

⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関(外国の研究機関等を含む。)において研究に従事することも計画している場合は具体的に記入してください。

受け入れ機関先や従事期間、および異なる研究期間で研究すること必要性を具体的に記載する。海外の大学へ留学を検討している場合(期間の〇/〇以内)なども記載する。該当がなければ、「該当なし」と記載する。

(例)博士課程進学後に、〇〇〇実験で有名な海外の〇〇研究所で、〇〇〇技術習得のために一年程度留学して研究に従事することを計画している

与えられたスペースを十分に活用して書き込みましょう

申請者登録名 〇〇〇〇

(3) 受入研究室の選定理由※各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

採用後の受入研究室を選定した理由について、次の項目を含めて記入してください。

- ① 受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施についての打合せ状況
- ② 申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開

※ 個人的に行う研究で、指導的研究者を中心とするグループが想定されない分野では、「研究室」を「研究者」と読み替えて記入してください。

↑ PDのみ

① 受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施についての打合せ状況

受入研究室の選定理由に、受入研究室について「〇〇教授がおり」「〇〇に関する屈指の研究グループがあり」といった記載をしていませんか？そういった記載自体は構いませんが、あくまでも申請者自身が受入研究室(新たな研究環境)で新たな研究課題に挑戦するという主体的な目線で書くのが良いと思われます。

例えば、研究者の論文や著書を読んだ、自分が学会発表を行った時に質疑応答の際にアドバイスを頂いた、研究者のセミナーを聞いた等のきっかけと、その時に自分自身がどう思ったかなどを素直に書くのが良いと思われます。また、採用後の研究打合せをすでに行っているのなら、その状況を記載するのも良いでしょう。本申請研究に向けて、準備が着々と進んでいることをアピールするのも良いでしょう。

② 申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開

受入研究室で新たに研究を始めることで、例えば、現在の自分の研究にどのような視野が加わるのか、それによってどのように研究が発展・展開するのかを書くのも良いでしょう。また、自分が受入研究室に加わることで、相手側にとってもどのようなメリットがあるのかなどを書くのも良いでしょう。

新たな研究環境に身を置いて、自らの研究者としての能力を一層伸ばそうとする意欲を持って研究を遂行しようとすることをアピールすることが大切です。

申請者登録名 ○○○○

3.人権の保護及び法令等の遵守への対応 ※本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本欄には、「2.研究計画」を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続が必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記入してください。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記入してください。

なお、該当しない場合には、その旨記入してください。

- ・ 該当しない
- ・ 本研究で使用する〇〇情報は全て公開データを用いるため該当しない。

「該当しない」、もしくは「〇〇〇という理由で該当しない(少しでも該当しそうな疑いをもたれそうな場合には理由を書く)」と説明する。該当する場合は、「倫理委員会」「遺伝子組換え実験安全委員会」「動物実験委員会」等の承認・届出が必要な実験について、必要な申請は済んでいるか確認し、それらについて全て記載しましょう。

【記載例】

- ・ 遺伝子組換え実験の場合
大阪大学遺伝子組換え実験安全委員会において研究計画の承認を得て、施設内の〇〇講習会を受講した本申請者が実験を行う。また、本研究では〇〇を使用するため、〇〇指定を受けた実験室にて研究を実施する。
- ・ 動物実験の場合
施設内の動物実験講習会を受講し、大阪大学〇〇動物実験委員会において研究課題の承認を受けている。また、計画した実験は全て動物愛護法等に則って実施する。
- ・ 病原体を扱う実験の場合
本研究では二種病原体に指定されている〇〇を扱うため、既に所属施設に届出を行っている。本研究計画を遂行するにあたり、感染症法及び大阪大学感染症発生予防規程等関連規定を遵守し、指定区域内で慎重に実験を行う。
- ・ 被験者を要する実験の場合
ヘルシンキ宣言に基づき、〇〇倫理委員会の承認の下、被験者の同意を得た上で行う。個人情報の取扱いは、被験者情報に匿名化処置を施すとともに、個人が特定できる形では発表しない。
- ・ 放射線照射施設利用の場合
放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律等関係法令、及び所属施設の〇〇安全規則を遵守し、放射性同位元素等取扱者教育訓練を受けた本申請者が、実験を遂行する。
- ・ 個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査の場合
調査対象者に対して研究の目的と調査内容を事前に説明し、同意を得た上で実施する。個人情報を含む情報については匿名化し、暗号化できる記憶媒体で管理する。〇〇学会の倫理規定に則り、所属する〇〇倫理委員会の審査を経ながら厳正な手続を踏まえて実施する。
- ・ 文学作品・美術品の調査等の場合
〇〇の調査を行うにあたり、所属機関である〇〇の許可に加え、著作権管理者である〇〇の許可を得た上で調査を行う。調査・研究成果の公表にあたっては、当該施設及び著作権管理者の指定や要請を遵守する。
- ・ データの取得の場合
データ管理者である〇〇に対して研究目的による使用申請を適切に行い、利用に際しては管理者の定めた利用規則を遵守する。

申請者登録名 〇〇〇〇

4.【研究遂行力の自己分析】※各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本申請書記載の研究計画を含め、当該分野における(1)「研究に関する自身の強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、具体的に記入してください。

(1) 研究に関する自身の強み

論文業績リストを書くのではない。その研究に対して自分がどのように取り組んだのか、得られた成果がどれだけ今回の研究計画につながっているのか等を詳しく説明することで研究遂行能力をアピールしましょう。

また、「自己分析」を記載するので、研究に関する自分の強みは何か、自分が足りないことは何かが分かるように記載しましょう。自分自身の体験や実例を挙げて具体的に説明することが大切です。「研究における主体性、発想力、問題解決力、知識の幅・深さ、技量、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの観点から、具体的に書くのが良いと思われま

す。共著論文などがあれば、自分がどういう貢献をしたか、その貢献によってどのような解決(成果)に至ったか等を書くの良いでしょう。

【学術論文】

(成果 1) 著者、題名、掲載誌名、巻号、p.XX-XX, YYYY. (査読有り)
(成果 2) 著者、題名、掲載誌名、巻号、p.XX-XX, YYYY. (査読無し)

←査読の有無を記載する。
査読有りの場合、採択決定済のものを記載する。

【受賞歴】

(成果 3) 著者、〇〇学会〇〇年大会、研究発表優秀賞(若手部門)、タイトル、〇〇〇〇年〇月

【学会発表】

(成果 4) 著者、タイトル、〇〇学会、場所、〇〇〇〇年〇月。(口頭発表)

その他、奨学金・フェローシップ獲得、創作物(文芸作品、芸術品等)、新聞他メディアへの発表など、自分の強みをアピールすれば良い。

(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素

((1)で書いた今の自分が足りないことを受けて)自身の成長について必要な要素を書いて、次の項目「5. 目指す研究者像等」へつなげるように書く。自分の研究経験などにもとづいた具体的なエピソードを入れることで、読む側の印象に残るように書くのが良いと思われま

申請者登録名 ○○○○

5. 【目指す研究者像等】※各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、

(1)「目指す研究者像」、(2)「目指す研究者像に向けて特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ」を記入してください。

(1) 目指す研究者像 ※目指す研究者像に向けて身に付けるべき資質も含め記入してください。

自分が目指す研究者像、研究者としての生涯の目標、理想像を書く。例えば、具体的な人物像(憧れの研究者や先生など)、研究者を目指すきっかけとなった出来事などを書くのも良いでしょう。

(2) 上記の「目指す研究者像」に向けて、特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ

「4.(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」を受けて、PD・DC の期間中に、何をやるのかを具体的に書く。自分の弱みを把握し、克服しようとしているかを見ている。

申請者登録名 ○○○○

6. 特別研究員申請書チェックリスト

このチェックリストには、この冊子にある情報の中で、申請書作成時に確認しておきたい重要かつ最低限のポイントをピックアップしました。申請書を書き始める前に下のチェックポイントに一通り目を通し、基本的な心構えを確認しましょう。そして申請書が仕上げの段階に入ったら、ぜひ第三者にも依頼して、このリストを活用して申請書の内容や読みやすさを最終確認しましょう。

申請者 チェック	第三者 チェック	チェックポイント
作成前後の確認事項		
		募集要項および申請書作成要領を熟読し、特別研究員の趣旨および審査方針を理解した
		申請予定の小区分が属する書面審査セットおよびキーワード表を確認し、審査員の専門分野の広さを確認した
		第三者(指導教官以外の周りの人、研究室や隣の研究室の知り合い等)に申請書を読んでもらい、第三者の視点を確認した
全般的な確認事項		
		研究課題名は「3.【これからの研究計画】」を反映し、専門分野が離れている審査員に理解できるようなものになっている
		学位の取得または学位論文の作成を研究の目的、ゴールに設定していない
		文字 10 ポイント以上。行間は詰めすぎない程度の間隔にしている
		インデント設定を統一している
		図はモノクロ(グレースケール)でも鮮明で見やすい
		表や図にタイトルをつけている
		本文中に表や図を引用し、その位置づけを明確にしている
		本文と表や図のレイアウトが見やすく整理されている
		必要に応じて、重要な部分は、 太文字 ・ <u>下線</u> ・ 四角囲み ・[括弧]などを使用して目立たせている
		必要に応じて、副題やトピックセンテンス、項立てや番号付けをしてメリハリをつけている
		誤字・脱字・分かりにくい文章、分かりにくい略語、専門用語を排除した
		本文中での参考文献の引用の仕方を統一している

申請者 チェック	第三者 チェック	チェックポイント
2.【研究計画】(1)研究の位置づけ		
		様式の枠内に指示されている項目を熟読した
		様式の枠内に指示されている項目の要点を絞り、自分の言葉で明確に記述している
		専門分野が離れている審査員にも分かるように、研究内容を簡潔に記述している
		所属研究室が進めている研究の一部を、研究室の方針の下で担わされているという印象を与える記述になっておらず、自分自身のアイデアに基づいて研究を主体的に進めていることが分かるような記述になっている
		伝えたい研究内容を説明するのに最も適した図や表を用いている
2.【研究計画】(2)研究目的・内容等		
		様式の枠内に指示されている項目を熟読した
		様式の枠内に指示されている項目の要点を絞り、自分の言葉で明確に記述している
		専門分野が離れている審査員にも分かるように、研究内容を簡潔に記述している
		伝えたい研究内容を説明するのに最も適した図や表を用いている
		(時間的に)実現可能性のある研究内容と研究計画になっている
		研究成果として期待できるものを、ある程度具体的に説明している
		特別研究員奨励費の制度を理解し、区分に応じた記載をしている。
3.【人権の保護及び法令等の遵守への対応】		
		「人権の保護及び法令等の遵守への対応」記述箇所では、求められている内容を記載している
4.【研究遂行力の自己分析】		
		「【研究遂行力の自己分析】」の記述箇所では、求められている内容を記載方法に従って記載している
		(1) 研究に関する自身の強み(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素について、具体的な例示や、明確な説明をしているか。

【別紙1】－学振特別研究員申請者に対する「評価書」の作成について－

学振特別研究員申請者の先生方へ

本資料は「評価書」の作成に特化してまとめたものです。審査員にとって、評価者となる指導教員が作成する評価書は大きな判断材料です。本資料も参考にいただき、自信をもって推薦できるということが伝わる「評価書」の作成をお願いいたします。

当たり障りのない、申請者が誰であってもそのまま使えるような内容であったり、同じグループから出された申請書の内容が似通っている場合には、本当にその申請者が評価書に書かれているような将来性を期待できる人物なのだろうかと思われてしまいます。申請書の内容が非常に高いレベルでの審査において、総合評点の4点と5点のどちらをつけるかを迷った場合には、評価書に記載されている内容なども非常に参考となります。

できるだけその申請者にまつわる具体的なエピソードや、申請者個人の研究姿勢や能力などが浮かび上がるように書くことが、審査員の印象に残る評価書となります。能力や人柄、将来性を期待できる人材の評価が正当に行われるように執筆をお願いしたいと思います。評価書を作成して頂く先生方こそが、その申請者を真に評価する審査員の一人であると思います。

この手引きが、学振特別研究員の採用に少しでも役立つことをURA一同、心より願っています。

2023年3月

経営企画オフィス URA 部門

評価書について

学振特別研究員に応募するには「日本学術振興会特別研究員申請者に関する評価書」が必要となります。

■DC(1通): 現在の研究指導者

■PD(2通): ①採用後の受入研究者 ②申請者の研究をよく理解している研究者

なお、評価書は指導教員・研究者が電子申請システムにおいて作成します。

○ 申請手続き (https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_sin.html)

(申請者の皆さんへ)

評価書は、審査員が総合評点の判断に迷うときに参考にされるなど重要な書類になります。学振特別研究員への申請を検討するときは、評価書作成についても指導教員に早期に依頼しましょう。「素材」を提供することも忘れずに行いましょう。また、これ以降のページに挙げたキーワードをヒントにして、研究職を志望する動機、目指す研究者像、自己の長所など、自己評価する上で特に重要と思われる事項をふりかえってみましょう。

(例) 自分の長所、研究エピソード、普段の研究生活、特技、趣味など

【入力可能文字数】

① 以下2項目については、半角 2,000 文字(全角では 1,000 文字)以内かつ行数が 25 行以下まで入力可能です。

- ・申請者の(1)「研究者としての強み」
- ・申請者の(2)「今後研究者として更なる発展のために必要と考えている要素」

② 以下項目については、半角 4,000 文字(全角では 2,000 文字)以内かつ行数が 60 行以下まで入力可能です。

・「申請者の研究者としての将来性を判断する上で特に参考になるとと思われる事項について」

※本項目については、特に優れた学業成績、受賞歴、飛び級入学、留学経験、特色ある学外活動など、申請者の将来性を判断する上で特に参考になるとと思われる事項があればそれに言及して記入してください。

1 ストーリーやキーワードについて

- 実際の評価書の中から、評価書の作成に参考となりそうなキーワードなどを抽出し、さらに文章の構成(ストーリー)例を作成したものを URA 部門においてまとめたものです。

2. 評価書の項目ごとの留意すべき点について

- 実際の評価書を参考にさせていただいた上で、以下に評価書の項目ごとに留意すべき点などを挙げました。また、例文の表もつけております。
- **申請者の研究における主体性、発想力、問題解決能力、専門知識・技量、コミュニケーション能力、将来性などについて**
- 冒頭と最後の締めについては、審査員の印象に残るような文章にされると良いようです。
 - 申請者の「専門知識・技量」について、詳細に記載されている評価書(特に理工系・医歯薬系の分野においては、実験の進め方についてなどを評価している内容)が多いようです。
 - 申請者が研究を主体的に進める能力があることを強調しているものも多くあります。
- **申請者の研究課題遂行能力及び我が国の学術研究の将来を担う人材となりうるかなどの資質について**
- 申請者の研究課題遂行能力については、「粘り強い」といった申請者の性格なども加味して、具体的に記載すると説得力が増すと考えられます。
 - 「我が国の学術研究の将来性を担う人材となりうるかなどの資質」は、「他の学生と比較して能力がトップクラス」「マネジメント能力を有する」「人格的に優れている」などを示すと、表現しやすくなると思います。
- **申請者の研究者としての将来性を判断する上で特に参考になるとと思われる事項について(例:特に優れた学業成績, 受賞歴, 飛び級入学, 留学経験, 特色ある学外活動など)**
- 特に「特に優れた学業成績」「受賞歴」「特色ある学外活動」の事実がある場合は、積極的に記載してください。
 - その他、「研究成果が(有名な)学術論文に掲載された・投稿中である」「(特に海外の)学会のシンポジウムの演者に選出された」「語学力を含め、多様なスキルを有している」などもアピールのポイントになります。

記入内容の例（DC の場合）

1	申請者の研究姿勢・忍耐力、専門知識・技量、着想力・創造力、コミュニケーション能力、将来性などについて。また、申請者の研究課題遂行能力及び我が国の学術研究の将来を担う人材となりうるかなどの資質について。	
	経歴・研究	姿勢・人柄
	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容・取組 学会発表 フルペーパーの業績 受賞 学歴 阪大前の学歴 異分野の経歴 飛び級 世界初の結果 成果の重要性、または量 	<ul style="list-style-type: none"> 研究に対する姿勢（独自性、柔軟性、忍耐力、熱心さ、能力、独創性、想像力、着想力、実験を楽しむ…） 行動力、積極性 コミュニケーション力 目標、そのための設計 目的意識 国際性 モチベーションの高さ 学者・研究者としての素養 人柄
	活動	その他
	<ul style="list-style-type: none"> TA 授業の手伝い 実験指導 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲への貢献 成長への期待 前大学の教授によるメッセージ 申請者が研究の参考に行っている文献 専門にとらわれない 期待感
文章の構成例		
<p>(1) 研究 → 学会発表 → 研究に対する姿勢 → 人柄 → 期待感</p> <p>(2) 学歴 → 研究内容・世界初 → 受賞 → 国際性 → 期待感</p> <p>(3) 研究に対する姿勢 → 学会発表・論文 → 独自性 → 国際性 → 人柄 → 成長への期待 → 期待感</p> <p>(4) 研究に対する姿勢 → 独自性 → 学者・技術者の素養 → 社交性 → 人柄 → 期待感</p> <p>(5) 阪大前の学歴 → 成果 → 研究者に対する姿勢 → 研究内容 → 期待感</p> <p>(6) 異分野の経歴 → 目的意識 → 研究に対する姿勢 → 周囲への貢献 → 前大学教授によるメッセージ → 期待感</p> <p>(7) 阪大前の学歴 → 研究者としての資質 → 研究の参考に行っている文献 → 研究内容 → 能力</p>		

2	申請者の研究者としての将来性を判断する上で特に参考になるとと思われる事項について。（例：特に優れた学業成績、受賞歴、飛び級入学、留学経験、特色ある学外活動など。）	
	経歴・研究	姿勢・人柄
	<ul style="list-style-type: none"> 論文 学会発表 受賞 講演 助成金の採択 新事実の証明、成果をあげたこと 成績 異専攻→上位成績 早期修了 飛び級 首席 取得単位数 教職免許 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の資質 能力 研究に対する姿勢（自主性、積極性、ディスカッション、社交性、努力…） 国際性 将来の夢 人柄 リーダーシップ
	活動	その他
	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト参加 研修(学外研修) 対外活動(共同研究) 大学への寄与(TA) 世界的評価 	<ul style="list-style-type: none"> 過去からの成長 期待感 施設公開時、来場者に情熱的に説明 先生→申請者に対する認知度
文章の構成例		
<p>(1) 受賞 → 学会 → 助成金の採択 → 学会 → 助成金の採択 → 国際性 → プロジェクト参加</p> <p>(2) 成績 → 受賞 → 論文 → 国際性 → 大学への寄与(TA)</p>		

- (3) 首席 → 短縮修了 → 学会発表 → 受賞 → 国際性 → リーダーシップ
 (4) 成績 → 国際性 → 教職免許 → 将来
 (5) チューター・TA → 施設公開時、来場者に情熱的に説明

申請者の研究における主体性、発想力、問題解決能力、専門知識・技量、コミュニケーション能力、将来性などについて。

冒頭と最後の締め

- …君は、世界的な生化学研究者である…教授の研究室で研究の手ほどきを受けた、将来性豊かな新進気鋭の研究者です。
- 故郷の…を離れ、大阪大学に進学したのは、卒業論文で取り組んだ…の研究を突き進むものとするために、関西という地の利と、…を専門とする教員のいる環境を求めたからであるが、それは…研究を志すという強い決意の表明でもあった。
- 私は、彼のように飛び抜けて優秀な人材が、より一層基礎研究に集中できるよう特別研究員として強く推薦させていただきます。
- 申請者が当グループに参加してくれれば、「生物学研究のための最強のツールとしての…」を旗印にしている研究室に、あたたかな風を吹き込んでくれるのではと期待しています。
- それだけこの学生に期待し、将来を託していると考えていただいて良いかと思えます。
- 自らの関心事に対しては粘り強く、真摯に取り組む姿勢は認められ、将来研究者として独立することが望める学生として、推薦します。
- …さんはこれまでに着実に研究成果をあげており、今後の研究によって…研究の基礎を築いてくれることを強く期待している。
- …閉塞した感のある…研究にも新たな展望が開けるだろう。そして、…さんの真っ直ぐでぶれることのない研究姿勢が、それを可能にすると確信している。

主体性

- 申請書にある研究計画は申請者本人が考えて立てたものであり、私の側からはいっさい指示は与えていない。
- 申請者は「次はどうするか？」を常に考えて行動するタイプで、研究者として極めて重要な素質を持っていると評価しています。
- また、研究活動としては…氏をリーダーとした…の復原事業に参加しており、学術的な面から助言・協力を行っています。
- 休日も含め朝早くから夜遅くまでこつこつと研究に打ち込む彼のサイエンスへの情熱、真理探究の強い信念は他に例を見ません
- スマートな学生、知識の豊富な学生、実験の手際の良い学生、成果を上げることにどん欲な学生、を見つけることはさほど困難ではありませんが、それに加えて「研究」というものに対する純粋なパッションを持ち、しかもそれを人に伝えることができる学生には何年かに一度しか出会えないと感じています。

発想力

- 計画内容はこれまでに自身が進めてきた…を中心に据えたものであり、極めて実現可能性の高いものである。その分、これまでの研究の延長のように見えてしまう感が否めないが、実際には研究の主眼は…という全く新しいフィールドへの参戦である。

問題解決能力

- また、彼は常に既存の概念にとらわれず、ときに誰もがハッとするようなアイデアを論理的に提示します。

専門知識・技量

- 実験原理を常に意識しながら適切なトラブルシューティングをしております。
- 自ら経験のなかった技法であるにもかかわらず短時間でこなしてみせるなど、…。
- 徹底して作品を観察し、…、画面構成や図様を復元するという、作品に即した実証的な美術史研究を心がけてきました。
- 前研究室での彼の鍛錬がうかがい知れます。
- 研究および臨床医の両方の資質を兼ね備えた将来有望な人材です。
- データの再現性を非常に厳しく吟味し、常に正確なデータを出すことを心がけた実験姿勢を認めます。
- 申請者のサイエンティストとしての資質に関して、一言で言えば「非常に粘り強くことにあたる、クラシカルなタイプ」と見てい

る。

- 申請者の様な化学の素養の上に生物学を学んだ学生が参入してくることに私自身大いに賛成である。
- 実験結果を要領よくまとめるだけでなく、研究者として重要な「伝える能力」にも長けており、また本申請書のプロポーザルをみても、理論的かつ明瞭に書く能力を有しております。
- 大学院生としては異例とも言える分量と多様性の実験を経験してきていることがわかりました。
- とても学位取得後間もない研究者とは思えない完成度の高い研究提案を書く能力を有しています。

コミュニケーション能力

- 学内外のセミナーや勉強会でも積極的に発言し、常に理解を深めようとする姿勢から、研究者としての資質を強く感じます。
- いつも抜群の存在感を示し、学生や他のスタッフも愉快的な彼女と一緒に仕事をするのが楽しそうです。後輩にとっても良いロールモデルとなってくれていると感じています。
- 人物としては静かで自己主張が強い方ではないため、普通の意味でのコミュニケーション力が高い人物には分類されないと思います。しかし、申請者が研究室の他のメンバー（多くは本人より年上）の話を聞いている、あるいは相談にのっている姿を見かける機会が多く、非常に信頼され、あるいは頼りにされていると感じます。私自身も申請者との実験結果についてのディスカッションは非常に楽しく、その点で申請者は科学者として非常に望ましい素養を持っていると考えます。
- …君の人物像を一言で言えば、「負けず嫌いで向上心・好奇心が強く、根性が座っている」ということでしょうか。しかし彼女は決して他人の言うことをお構いなしに我が道を行くというタイプではありません。物怖じせず誰にでも話しかけますが、自分のこと、自分の考えをしっかりと相手に伝えようと努力すると同時に、相手の話を注意深く聞き、全体像を理解しようとする熱意も感じます。

将来性

- 将来性豊かな新進気鋭の研究者です。
- …さんはライフサイエンス分野の同年代の若手研究者の中で、間違いなくトップクラスの能力をもち、将来研究者として独立するに十分な適性を有していると考えます。

申請者の研究課題遂行能力及び我が国の学術研究の将来を担う人材となりうるかなどの資質について。

研究課題遂行能力

- 私は当初、合成や発現蛋白質へのカップリングなどで相当なトライアンドエラーが必要と覚悟していましたが、結果を報告に来たときにはすでに問題を自分で探し当て、解決していました。
- 資料を一から集めるという膨大な作業が必要ですが、…さんはその作業に信じがたい粘り強さをもって取り組んでいます。
- 難しい課題であったが、それに真っ向から、粘り強く挑んだ研究姿勢は高く評価できる。

我が国の学術研究の将来を担う人材となりうるかなどの資質

- 申請者である…さんはライフサイエンス分野の同年代の大学院生の中で、間違いなくトップクラスの能力をもち、将来研究者として独立するに十分な適性を有していると考えます。
- 大学ではティーチング・アシスタントとして学部学生の指導にあたり、そのマネジメント能力には卓越したものがあります。
- 人格的にも優れていると思われ、将来は一流の研究者として活躍する逸材だと確信している。
- 400字詰め原稿用紙に換算して200枚を超える修士論文は、質量ともに圧倒的であり、留学生としては抜群の力量の持ち主である。

申請者の研究者としての将来性を判断する上で特に参考になると思われる事項について。

(例:特に優れた学業成績、受賞歴、飛び級入学、留学経験、特色ある学外活動など。)

特に優れた学業成績

- 通常は4年の学部課程を飛び級によって3年で卒業し、卒業論文も含めた評価において優秀成績賞を受賞し、…。

受賞歴

- …大学大学院においても…研究科においてトップの成績を修め、修了にあたり総代となる栄誉を得ました。

特色ある学外活動

- すでに国内外において多くの彫刻作品の調査に参加した経験がある。

その他

- この結果に関しては現在論文投稿中であり、今年5月にxxxxx Conferenceにて本人により発表予定です。
- ちなみにこの研究成果は6月に開かれる・・・学会年會に演題として提出した結果、若手奨励賞候補の10演題に選ばれ、・・・君はメインイベントである奨励賞シンポジウムで口頭発表することになっています。
- 考古学のスキルを身につけている点も・・・くんの大きな強みである。仏教美術研究にとっては、本来的に考古学の知識が不可欠である。
- 特筆すべきは優れた語学力である。とりわけフランス語に堪能で、フランス政府主催による語学文化研修に参加した経験をもっている。
- 積極的な姿勢についても高く評価できる。博士前期課程1年において、・・・美術館のインターンシップに応募して採用され、1年間、延べ30日以上にわたり仏教絵画の展示や調査のアシスタントを務めた。また、「・・・」というテーマ展示を企画する機会を得て、リーフレットの解説も執筆した。
- 大学院には他大学からの進学であったが、いち早く環境に溶け込み、研究室行事の幹事役も率先して引き受けてくれている。現在は、文献講読演習のTAを務め、授業のコーディネーターや準備だけでなく、学部生の発表のサポートもしてくれるなど、大いにリーダーシップを発揮している。
- ...研究は、研究環境が閉鎖的なこともあって、現在は必ずしも活発に研究が行われているとは言えず、若手研究者が渴望される状況である。そうしたなか、・・・くんは大いに将来が囑望される人材である。

<研究職を志望する動機>

研究について	思い
研究中の恵まれた環境で得たこと 研修で目の当たりにした限界 新たな目標 研究に対する哲学 研究に対する確信 ノーベル賞学者からの直接指導 新しいシステムの開発 成果の発表 環境保護 命を救う	社会への還元 人類・歴史・進歩・科学技術の発展に貢献 未解決問題を解決 疑問を持つ 知識の創造 新しい関係性を築きたい ものづくり やりがい 楽しい、喜び 好奇心、探究心 達成感、充実感 技術大国で働く誇り
様々な経験	幼少期～高校時代について
就労経験 留学経験 著名な研究者の講義を聴講したこと 学部時代の講義	子供時代の興味・憧れ 幼少時期の病歴 近親者の病歴 恩師のことは 高校の授業での出会い

<目指す研究者像>

研究について・姿勢	研究について・姿勢
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に還元、貢献 ・ 後進へ姿勢を示す ・ 本質・面白さを伝えられる ・ 異分野への好奇心、分野にとらわれない ・ 研究に対するスタイル ・ 研究に専念 ・ 研究成果に誇りを持つ ・ 疑問を持つ、解き明かす ・ 随時成果を発表する ・ どのような研究が求められるか考える ・ 研究を楽しむ ・ 幅広い活動、グローバルに活躍 ・ 幅広い分野の知識 ・ 明確なビジョン ・ ○○では満足しない ・ ○○に立ち向かう ・ 切磋琢磨 ・ 倫理観 ・ ネットワーク ・ 教育者 ・ 後生に引き継ぐ ・ 高い専門性 ・ 第一人者になる ・ 本質を捉える ・ 心理の追及 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独創性 ・ 協調性、社交性、柔軟性 ・ 行動力、実行力 ・ 好奇心 ・ 国際性 ・ 想像力 ・ 向上心 ・ 計画遂行能力 ・ リーダーシップ ・ プレゼンテーション能力 ・ コミュニケーション能力 ・ 現場の人々との交流 ・ リテラシー ・ 学習意欲
	その他
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引用、熟語、ことわざ

<自己の長所>

能力・性格	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 好奇心、探究心 ・ 柔軟性 ・ 開放的 ・ 積極性、行動力 ・ 判断力 ・ 向上心、前向き ・ 根気強さ、諦めない ・ 思い切りの良さ ・ 集中力 ・ 創造力 ・ 知識欲 ・ 熱意 ・ 負けず嫌い ・ 気配り ・ 忍耐 ・ 努力 ・ 冷静 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自信 ・ 誠実 ・ 責任感 ・ 協調性 ・ 国際性 ・ 広い視野 ・ 基礎に立ち返る ・ リーダーシップ ・ コミュニケーション能力 ・ プレゼンテーション能力 ・ 技術的な技量
	その他の経験等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考にしているもの ・ TOEIC、表彰等、具体的な評価 ・ 座右の銘 ・ 一人旅の経験 ・ 周囲からの厚い信頼 ・ 後輩への指導

<特に重要と思われる事項>

受賞・論文等	活動等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 受賞 ・ 論文 ・ 学会発表 ・ 助成金の採択 ・ 特許 ・ 奨学金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に関するボランティア ・ 塾講師の経験 ・ 大学機関誌の出版・編集・取材 ・ ワークショップ企画 ・ 他校での授業を担当 ・ TA

<ul style="list-style-type: none"> ▪ 研修 ▪ 飛び級 ▪ 成績 ▪ 教職免許 ▪ 早期配属制度 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 運営 ▪ プロジェクトの中心的役割 ▪ 課外活動 ▪ 生徒会長 ▪ 研究会
国際性	
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 留学 ▪ 留学生との国際交流 ▪ ホームステイ ▪ 英語研修プログラム ▪ 外国人研究者とのコミュニケーション ▪ 外国人研究者への実験指導 ▪ TOEIC ▪ 今後の研究留学の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 勉強会 ▪ 読書会 ▪ 調査旅行 ▪ 転学部

【別紙2】参考サイト

- 電子申請システムへログイン
→ https://www-shinsei.jsps.go.jp/topyousei/top_ken.html
- 日本学術振興会 特別研究員のことを知りたい
→ <https://www.jsps.go.jp/j-pd/index.html>
- 大阪大学での支援を知りたい
 - ・ 令和6(2024)年度採用分 特別研究員・海外特別研究員学内説明会
→ https://my.osaka-u.ac.jp/admin/kensui/special_researcher/orientation/R5tokukaiaorientation
 - ・ 過去の学内支援(マイハンドイ)
→ https://my.osaka-u.ac.jp/admin/kensui/special_researcher/application-information/x74zeu



日本学術振興会のホームページ、きちんと確認していますか？

➤ 募集要項

募集要項および申請書作成要領は熟読しましょう。

➤ 選考方法

選考方法が確認できます。
任期を終了された審査委員名簿も閲覧可能です。

➤ 審査区分表

平成31年度採用分より、研究者養成事業では従来の「系、分野、分科、細目表」ではなく、「小区分、書面審査区分、書面合議審査区分」で構成される審査区分表で公募・審査が行われています。

➤ 採用状況

採用状況が閲覧可能です。

➤ 採用者一覧

申請予定の審査区分でどのような研究課題の提案者が採用されているのか、審査区分の専門分野の広さや、研究課題名を考える上でのヒントになるかもしれません。



令和 6 年度(2024 年度) 採用分
日本学術振興会特別研究員 (DC, PD)

特別研究員申請書の書き方 コツとアドバイス

2023 年 3 月第 1 刷発行
©大阪大学経営企画オフィス URA 部門

本マニュアルは、大阪大学における日本学術振興会特別研究員採用数の向上を目的として作成されました。
本マニュアル記載内容の無断転載・複写・引用・学外配布等を禁じます。

お問い合わせ先:

経営企画オフィス URA 部門: ou-mogi.omp@ml.office.osaka-u.ac.jp
研究企画課: kensui-kensui-gakuzyutu@office.osaka-u.ac.jp

